

# Rotary Club of AMA



2014-2015年度  
国際ロータリーテーマ

## LIGHT UP ROTARY



2014~2015年度 RI 会長  
ゲイリー C.K. ホアン

第2760地区ガバナー

近藤 雄亮

会長 栗木 和夫

副会長 篠田 正志

幹事 白井 幹裕

例会日 毎週月曜

例会場 名鉄グランドホテル

事務所 〒453-0015

名古屋市東区中村区椿町17番16号 丸元ビル

TEL (052) 451-6617

FAX (052) 451-6710

区域 愛知県・海部郡内3町村と2市

会報 田邊 正紀 大西 晃弘 神田 康史

柏子見 昌敏 大竹 和美 山田 幸治

### 2014年9月1日(雨)

### 第1週 第2081回例会

**Song** ”君が代・奉仕の理想”  
**Visitor** 黒松健太郎君(富士宮RC)他1名  
**Guest** 篠田耕伸氏(鈴木正徳君ゲスト)他1名

#### Attendance

会員	79名	欠席	9名	出席率	86.57%
----	-----	----	----	-----	--------

**President Time** 栗木和夫 会長



皆さん、今日は。先週の食事で久しぶりの中華料理はいかがでしたか？会員増強委員会でのクラブフォーラムで、私担当の第9グループは若いせいかな？やや控えめな山本さんを除き完食でした。中西さんもダイエット中を忘れ、皆で美味しくいただきました。フォーラムの内容はまとめていただき、増強につながるよう報告していただきます。

7月7日の初例会より、会長挨拶の冒頭は風速40M台の猛烈な台風、数時間で1ヶ月分の雨量が降る集中豪雨、日本では以前考えられなかった竜巻等の災害の話でスタートしていました。「天災は忘れたころにやってくる」でなく「必ずやってくる」と思ふべきであると言われていいます。今日

9月1日は防災の日で、1923年9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れないようにと制定されました。例年この時期に台風が襲来するといわれている210日に当たり、気を付けるという意味も含まれているそうです。制定前年の昭和34年9月26日には、死者5100名に及び当地域最大の災害であった伊勢湾台風が襲来した記憶があります。当時自宅前までの浸水であったが、55年経過したら地盤沈下が進み、海拔0mであった地域が-1.5mになり、近くを流れる1級河川の日光川が地震及び津波で川を遡上して堤防が決壊すれば、私の住む神守地域は住居の1F天井まで水位が来るほどです。したがって国の地震調査機関によると東海、東南海地震が今後30年以内の発生確率が70%程度と公表されていることに恐怖を感じます。自分たちの命は自分たちで助け合い守る。自分たちの地域はみんなで助け合い守る。と、災害に対する意識を高めましょう。

<b>Today</b>	9月 8日(第2082回)
担当	後藤雅光 青少年奉仕委員長
演題	卓話「青少年交換とは？」 地区青少年交換委員長 岡田雅隆君
<b>Next Week</b>	9月22日(第2083回)
担当	石田智彦 米山奨学委員長
演題	卓話 米山奨学委員会

## ご投函有り難うございます

栗木和夫 会長

伊藤英毅会員増強委員長、今後もよろしくお願ひします。

ニコボックスの皆さん、ハイペースの投函です。有り難うございます。

篠田正志 副会長

元津島市立神守中学校校長、梶村様、本日の卓話、よろしくお願ひします。

石田智彦君

久し振りの例会出席です。皆様とお会いできてとても嬉しいです。7月28日にホームクラブ100%出席で卓話をさせて頂いたのが夢のようです。

米山記念奨学会にご寄付頂き有り難うございます。今後とも、皆様よろしくお願ひいたします。

巧妙な手口の詐欺に引っ掛かりそうになりました。皆様も十分ご注意下さい。

カーサ・カラカラを紹介頂いた皆様、大変有り難うございました。堀川沿いにあの様な素晴らしいお店があるとは、心底驚いております。

栗木年度、皆様にご迷惑をお掛けして申し訳ありません。ニコボックス委員会の皆様、ご苦労様です。

東海広光君

大竹敬一君、伊藤正征君、有り難うございました。よろしくお願ひいたします。

今日は私の64才の誕生日です。健康に産んでくれた両親に感謝し、ワインセラーをプレゼントしてくれました家内にも感謝です。来年からは月例も白マークから出来るので楽しみです。

明日9月2日で入会12年となります。沢山の奉仕の機会を頂き、私を育ててくれましたあまRCに感謝です。

これからもよろしくお願ひいたします。

栗本裕子君

神戸パストガバナー、先日は有り難うございました。美味、至福もさることながら、実りあるお話、心いたしました。

山田幸治君

今日は二百十日です。子供の頃は必ず台風が来ました。

二百廿日も。

91年前の今日、関東大震災が起きました。

1959年9月26日、伊勢湾台風でした。

中西 巧君

体重の減量報告です。1kgリバウンドで増えてしまい、現在マイナス7kgです。目標まで残り3kgです。

鈴村與左衛門君

ニコボックスの皆様、お疲れ様です。

田中正博君

8月は全国で災害が多かったです。改めて自然が怒ると怖いですね。9月1日は防災の日です。防災訓練しましょう。

後藤 眞君

皆様の大事なお金を頂き、あまロータリー文庫を海南病院に設立することが出来ました。感謝で一杯です。有り難うございました。尚、贈呈式は会報に載っております。

家田安啓君

防災の日です。いつか来る大地震が心配です。

児玉憲之君

ニコボックスの皆様、お疲れ様です。

國元 卓君

先日「LINE」の乗っ取りの被害にあいました。友人に実害が出てしまいました。皆様お気をつけ下さい。

黒川元則君

立松君、栗本君、ロータリーの友情に感謝します。

黒野晃太郎君

夏休みが終わり、孫から解放されそうです。

水野 眞君

在籍40年のバッジを頂きました。5代目服部会長から46代栗木会長まで長い間有り難うございました。

水谷安紀君

ニコボックスの皆様、お疲れ様です。

宮下忠克君

8月29日職業奉仕委員長会議、ちゃんと出席してきましたので、報告します。

大西晃弘君

金曜と土曜で富士山に登ってきました。全身筋肉痛です。

大竹敬一君

河瀬君の素敵な笑顔に敬意を表して。

高山 敏君

東海君、先日は大変良い物を頂き有り難う。

立松絹久君

黒川君、ご馳走様でした。元海さんのイカは何時も最高ですね。

山田幹夫君

鬱陶しい雨も「セプテンバー・レイン」と呼べばロマンチックです。

栗本君の甘い呼びかけを期待して。

横井久雄君

秋です。うるさかったセミの鳴き声がコオロギに変わりました。

吉田 勤君

8月は夏バテが続きましたが、やっと食欲の秋が来ました。

9月誕生日をお迎えの方々より

**合計 62,000円**

## 卓 話

「次代へつなぐもの」

元津島市立神守中学校校長 梶村明人氏



皆さん、こんにちは。はじめまして。梶村明人と申します。今日は、このような場にお招きをいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

栗木会長さんとのご縁は、私がこの3月に定年退職しま

した「津島市立神守中学校」でした。栗木さんは神守中学校での先輩に当たり、私もまさか母校の教頭、校長になるとは思いもよりませんでした。愛知県下の小中学校でも母校の校長をしているのは5名いるかないかです。

昨年の4月8日の「第2024回例会」の会報で、当時は栗木副会長さんでしたか、卓話の中でご紹介していただきました「学校支援地域本部（通称：豆ボラ神守）」を2010年10月に立ち上げていただきました。活動を端的に申しますと、地域のボランティアさんによる学校への支援をつないでいただいたり、運営したりする組織です。PTAとは異なりますが、あくまで学校のニーズに対応した支援です。10の支援分野があり、学習、図書、環境、生活安全、不登校・外国人、部活動、学校行事、外部講師派遣、小学校ボラ派遣、中学生ボラ派遣があります。多い時で登録メンバーは140名ほどで、地域40%、大学生50%、保護者10%の構成です。退職教員・現職講師も数名みえ、毎週月火木土、それ以外の曜日も不定期で、年間延べ1000名以上の支援を生徒にいただいています。文科省が平成20年から精力的に力を入れている「学校・家庭・地域の連携」の目的で、地域の方と直接生徒がふれあうことでよりよい地域づくりしていくための活動です。詳しくは本日のチラシやHPをご覧ください。今日は、豆ボラ神守のチーフコーディネーターの長谷川よしよも、お招きをいただいております。ありがとうございます。

栗木さんとのご縁は、この豆ボラの活動の一つである「生活安全支援」でした。津島市少年補導員として、月1回、校内を巡回して、生徒に声かけをしていただくことで、地域でも顔見知りの関係で気軽に声をかけて、青少年非行の抑止力の役目を果たしていただいています。こちらも愛知県警からも感謝状を頂きました。

今日も皆さんとこうして一期一会をいただき、今日が最初で最後の出会いになるかもしれません。本来ならば、まず自己紹介をして「あなたは何者？」という皆さんの警戒心を信頼に変えるために、私を知っていただく話を進めるのが定石ですが、自己紹介だけで30分の持ち時間が終了してしまいます。そこで、本日お手元にお渡ししました「豆ボラ神守」のチラシの最後に遠慮がちに付けておきました。企業の方ならご覧になられたこともあろうかと思いますが、日記やTODO、考え事、読書記録、授業改善、部活動などにマインドマップを取り入れて、生徒に教えたり

して活用しておりました。このマップの見方は、右上の枝（ブランチ）から放射状に、時計回りに読んでいただくと、30分かかる紹介がわずか3分で共有していただけます。

早速、本題に入りたいと思います。今月のこのクラブのテーマが「青少年」ということで、本日のテーマは「次代へつなぐもの」と、大上段に構えた題目を付けましたが、教育は次の世代の人材を育成することが究極の目的です。多分、ここにいらっしゃるすべての皆さんも、会社の行く末や誰をどの役職に当てはめるのが、次代につなぐことになるのかと、いつくとも分からない寿命と隣り合わせの命題に、終始しておられるのではないのでしょうか？皆さんと一緒に考えていけたらと思います。そこで、今日のストーリーラインは、最初に「今どきの若者」、次に「全国学力・学習状況調査から見えてきたこと」、最後に「次代へつなぐために」の流れで話を進めたいと思います。30分を越えると、罰金ですね？

「今どきの若者」

## 1. プラス面

- ①携帯、スマホ、PC、タブレットなど情報端末を使いこなす。モノへの適応力は素晴らしい。情報処理力はO。目にも留まらぬ速さの親指遣い。
- ②プレゼン力も素晴らしい。（総合学習の成果）
- ③発信力も素晴らしい。
- ④純粋で、真面目。

基本的には、昔と人間的な面は変わっていません。女性が生徒会やPTAなどの組織の長になるケースが多くなってきたのは、男女共同参画の点でも良いことだと思われます。ただ、身体の成長は早いのですが、やや幼稚化してきていると思います。

## 2. マイナス面

- ①情報編集力が弱い。情報を鵜呑みにしたり、深く考えずに、軽く考える。判断力が弱い。
- ②伝えられていない環境に育ち、人としての常識が身につけていない。→大人の責任
- ③バーチャルの世界での疑似体験がリアルだと勘違いしている。
- ④失敗を恐れ、そつなくこなす。
- ⑤ストレスに弱く、コミュニケーションがとれない。（うつ病になりやすく、一人で抱え込んでしまいます）
- ⑥甘えや怠慢を正当化する。

- ⑦返事はいいが約束を守れない。
- ⑧メールで欠勤連絡（教師でも）。
- ⑨自分に非があっても素直に謝れない。
- ⑩一度聞いたら、二度と聞けないと思っている。
- ⑪言われたことだけはするが、相手の先読みはしない

## 3. マイナス面の要因として

- ・自然体験、社会体験が乏しく、体感的にものごとを捉えてそだってこなかった。
- ・モノを与えることで愛情を注いでいる思っていたり、子どもと共通行動をすることで、しつけている思っている親が多い。
- ・個別化が進み、他と交わることを敢えてしなくてもよい社会環境により、人とコミュニケーションをとることが少なく、取り方も分からない。
- ・「伝わって」こそコミュニケーションだが、「伝える」で役目を果たしたと思っている。

「伝える」は自分が基準。「私は伝えましたが」「相手が聞いてなかったと思います」というように、「伝える」という自分の責任は果たしたとする自己肯定が多くなっています。情報機器などの機械を絶対視し、電子メールのように、送信したら相手に伝わったものだと思い、相手のおかれた状況も関知せず、一方的に送信者側の思惑や段取りで考えようとする感覚が、人との実際のやりとりにも適用してしまう生活に慣らされてきたことによると思われる。

「伝わる」は相手が基準。「先祖代々、伝わっている」など、伝わるまで伝えたり、方法を変えて伝えようとはせず、物事が進んでいます。この「伝わらない」ことが、誤解や人間関係のトラブルになり、やがてはクレーマー、モンスターペアレントを生み出しています。

このように、生育歴（親のしつけ等）が大きく影響しています。親は伝え（しつけ）たりしているつもりでも、子どもには伝わっていない。自分に関心のあることには耳を傾けるが、そうでなければ、他人事としてとらえて、育ててきた傾向が強いからだと思われます。

## 4. 新聞の事件・事故から

連日のように死亡事故や殺人事件が新聞から伝えられています。とりわけ、7~8月に木曽川の水難事故で河川流域の小中学生が水死しました。誠に残念なことです。木曽川の水の怖さは、昔は船頭さんや漁師さんなど、その道のプ

口の経験が、地域でも伝えられて、代々、伝わってきたことですが、地域のつながりが薄くなり、直接、経験を聞く機会や伝えられる場面がなくなり、このような結果になったと思います。怖いという体験ありませんから、欲求が先立ちます。学校での安全指導の方法も検討する時にきていますが、確実に「地域のつながり」「地域の教育力」が低下してきている結果だと思っています。私はカヌーを漕ぎますが、ボーイスカウトで幼稚園児や小学生を乗せる時には必ず、ライフジャケットをみんなの前で川に投げ込みます。浮くということと、命を守るものだというを実際に見せます。こうすることで、誰一人、着用しない者はいません。同様に殺人・自死などの命に関わる事件も、近隣でも気づかない人間関係が、ますますこのような痛ましい事件を引き起こすように思います。

#### 「全国学力学習状況調査から見てきたこと」

学校の目的は、「学力と社会性」を身に付けさせることと捉えています。塾では学力はつきますが、社会性は、集団でいる学校の役割です。

#### 1. 学力と相関が強いものベスト3

「持ち家率」・・・★伝統的な人間関係が存続している地域（つまり「つながり」が豊かにキープされている地域）は、おしなべて学力が高い傾向を示しています。

「離婚率」・・・家族との揺らぎ、崩れを表しています。

「不登校率」・・・学校と教師の揺らぎ、崩れが影響していると思います。

「生活保護率」、「大学進学率」も今も昔も学力と非常に大きな相関があります。おおよそ見当がつくと思いますが。

2. 持ち家率のベスト3の県は、学力のベスト3の県と一致（秋田、富山、福井）

・昔、日本海側は学力も低位だったが、なぜ今、トップか？世代を超えた大家族で、温かいふれあいが多く、子どもも安定している。

農業か漁業しかない秋田県のある村では、ロータリークラブが留学生や留学に奨学金制度を行っているのと同じように、秋田大学教育学部に優秀な生徒を毎年2名ずつ奨学生として送り出し、「卒業したらこの村に帰って教師になってほしい」と、今では、村の学校は教育に燃えた先生でいっぱいになった。現在、教育の町になり、脈々と受け継がれているそうです。また、授業の形態も教え込みではなく、

学び合い、対話を重視した授業をしています。神守中学校も3年前から、全職員でこの学び合いに取り組んでいます。生徒の表情が明るくなり、寝ている生徒がいなくなり、男女の関係もよくなり、いじめも減ってきました。これも「豆ボラ」がバックにあったお陰です。

#### 3. 神守中の場合

・「持ち家率」・・・多い方だと思いますが、確実に減ってきています。

・「離婚率」・・・15%~20%です。入学式では必ず、「卒業までは別れないで」と訴えました。

・「不登校率」・・・平成20年当時は、全国平均が2.6%に対して、倍以上の6%以上でした。全校生徒600名で40名以上、予備軍も入れると60名近くいました。神守中学校の数十年來の教育課題で、豆ボラの力の支援と職員での根本的な取り組みで、今年8月現在で、3名になり、劇的な変化を遂げました。

#### 4. 子どもの学力を高めるための家庭での重要な3つの資本

・経済面・・・東大生の7~8割はピアノ・バイオリンが弾ける。平均年収1500万とも。通塾率も、学力に確実に相関が強いです。言うまでもなく、お金・資産は、学力に非常に大きな要因となっています。

8月25日の報道発表で、「子どもの貧困率」に対する文科省の施策が発表されました。塾へも行けない、行かせられない低所得家庭が現在16.3%あるようです。「子どもの貧困」家庭対策として、100人以上の学校規模で、25%以上の貧困家庭率の学校を対象に、10年で2000名の教員配置して、放課後補習などをして学力の底上げをしようとしています。

・文化面・・・親の学歴や文化活動が活発な地域は、学力が高い。

・社会関係面・・・地域との信頼関係、ネットワーク、コネなどつながりが強い家庭や地域は、子どもの学力にも強く影響します。子どもための地域のネットワークが何重にも張り巡らされている環境が学力にも大きく関わってくるのが研究からも見えてきたようです。

#### 「次代へつなぐために」

1. 「命」があつての人生・・・自殺、殺人、ネットいじめ、虐待など人が起こすものですが、地域でのつながりが強か

ったら、こんなことになっていなかったと思われます。学校だけでは、地域づくりは限界があります。是非、皆様のような方々の支援やプロモートがなくては、創り上げることはできません。また、戦争を体験していないものばかりが、戦争の怖さ、残酷さを知らずにバーチャルでものを語り始めると、また、命を脅かす国家間の関係に発展しかねません。原爆や戦争の悲惨さを身震いをもって感じる、伝わる活動をすすめることも大切です。体験の少ない教師が増えてきている現代。知識は教えられますが、子どもへの伝わり方が弱いのです。少しでも実体験を語り、ホンモノを見せたり、伝えたりする機会があれば、是非伝えていただきたいと思います。

2. これも命に関わりますが、災害には中学生が役立ちます。東日本大震災が起こった2011年の11月に、中学生にこの悲惨さ、自然の脅威、何をすることが地域のためかを身を以て知らせるため、生徒・保護者・地域・教師・豆ボラから希望者を募り、ボランティア活動に出かけました。生徒97名、保護者9名、教師9名、地域9名の125名で、0泊3日で岩手県大船渡市の河川敷の野球場のゴミ拾いに出かけました。自分の目で見させることがなければ、映像だけでは分からないということ、やがて来るであろう3連動大地震にそなえ、地域防災の芽を育てたかったからです。この時、地域の方から毎年100万円の寄付金を頂け、モノは時がたてば朽ちていくので、次代を担う若者に投資しよう考えました。もし、万が一、連れて行って事故でもあったら、校長を辞める覚悟でした。ボーイスカウト活動で培った「そなえよつねに」の構えで万全の準備をし、無事に帰ってきました。中日新聞にも4回ほど取材を受けました。もし昼間に大地震が起こったら、地域には老人と子どもしかいません。高校生以上は直ぐには帰宅できません。独居老人や身体障害者の方が地域におられたら、避難には中学生が力を発揮します。釜石でも日頃の隣同士のつながりや訓練をしていたからこそできたものです。このような活動を続ければ、10年後にこれが地域の文化になり、生徒が親になった20年後には、これまでしていただいた返礼として地域に代々受け継がれていくと思います。スパイラルサイクルを起こさないと、地域は崩れていきます。その意味でも中学生を巻き込んだ地域の防災訓練をすることが、間違いなく命の存続あつての地域になります。

3. 他人との信頼づくりが広がる、地域の奉仕活動をお願

いしたい。地域の人々とのつながりがより強く、より広くなるように、「情けは人のためならず、お互い様、お陰様、持ちつ持たれつ、give&take」というボランティア精神の高揚と信頼のネットワークが広がるような町づくりを、是非是非お願いしたいと思います。お願いばかりで申し訳ございません。

最後に、折り返的に「あまロータリー」を詠みこんでみました。

あ 愛と

ま 真心で

ロー ローカルを

タ たゆまなく

リー リードする 「あまロータリー」

貴クラブのますますのご活躍とご発展を祈念しております。ご静聴ありがとうございました。

例 会 変 更		
例会日	クラブ名	場 所
9/17 (水)	名古屋東南	マリOTTアソシア
	名古屋守山	マリOTTアソシア
9/18 (木)	名古屋丸の内	クレストンホテル

#### 「ロータリーの友 月刊誌について」

上田博行君

私も入会して18年経ちましたが、未だにロータリーのことがよく理解出来ずにいます。恥ずかしい限りです。

毎月ロータリーの友が配付されますが、雑誌委員会より記事の紹介、皆様お読みになっていますか？是非読んでくださいと提起されます。私自身もあまり読みませんが、「友愛の広場」「卓話の泉」を拾い読みする程度です。ロータリーを理解するのに共感を覚えた掲載記事があり、ご紹介いたします。一助になれば幸いです。

2007年9月号「友愛の広場」例会の大切さ

敦賀 刀根荘兵衛様（一部抜粋）

「そもそもロータリーはボランティア団体ではない。ロータリーは奉仕理念を例会で学び、自分の人格を高め、その高められた心を持って自分の職業や業界に於いて職業奉仕理念を実践し、あるいは地域社会、国際社会において自ら先頭に立って社会奉仕活動するところではないかと思う」

「まさにあなたがロータリーそのものであり、あなた自身がロータリーの心を推進しなければならない。そのための学び場が例会である」